

経営比較分析表

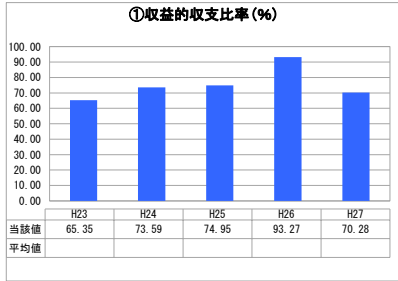
千葉県 習志野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
法非適用	下水道事業	公共下水道	Aa	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	
-	該当数値なし	94.48	63.52	2.072

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
168,838	20.97	8,051.41
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
160,109	15.20	10,533.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



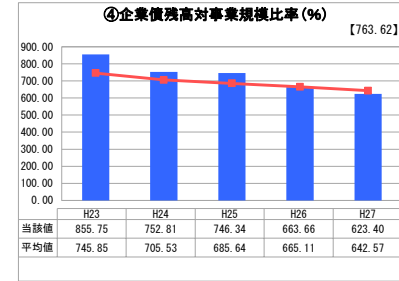
「単年度の収支」



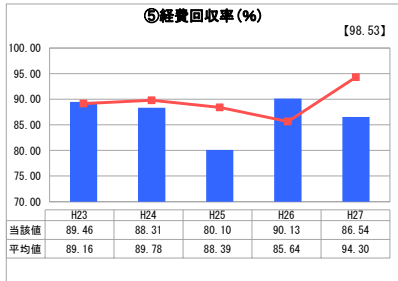
「累積欠損」



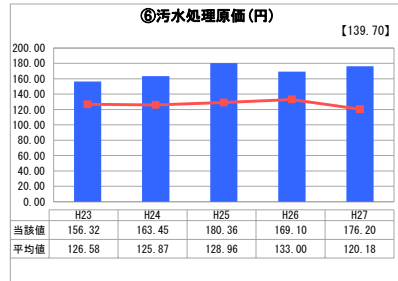
「支払能力」



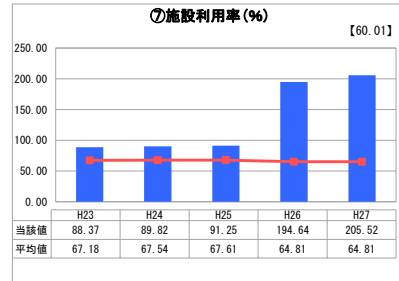
「債務残高」



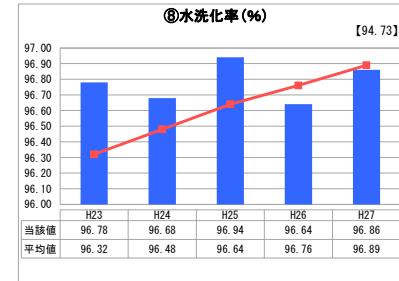
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

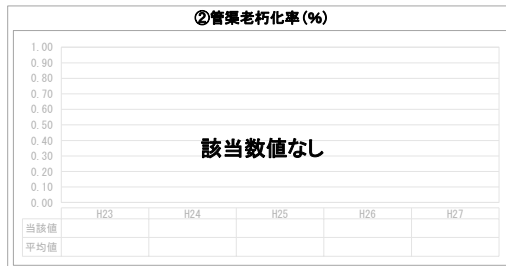


「使用料対象の捕捉」

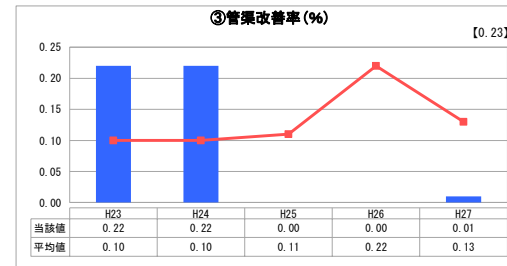
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率について、H23は東日本大震災の影響もありましたが、H26には使用料改定を実施するなど、経営改善に向けた取組みが成果を上げています。なお、H27は総務省通知により雨水処理元金償還金に対する繰入金営業収益から資本的収入に振り替えたため、相対的に低くなりました。④企業債残高対事業規模比率について、H23は東日本大震災の影響で企業債残高は一時的に増となりましたが、債務残高削減のため、今後も債務の償還を積極的に進めていきます。⑤経費回収率について、津田沼浄化センターの運営費が年々増加していることから、相対的に低くなってきています。H25は下水道事業債の繰上償還を実施した影響で一時的に低くなっています。H26には使用料改定を実施したことから、増加に転じました。⑥汚水処理原価について、本市の約半分の地域は合流管で整備していることから、比較的不明水も多くなる関係上、類似団体や全国平均に比べて高い数値となっています。⑦施設利用率について、本市の処理場以外にも接続している地域があることから、類似団体よりも高く、また100%を超えています。⑧水洗化率については、高い数値で推移しており、今後も水洗普及を促進していきます。

2. 老朽化の状況について

これまでは、公共下水道管の未普及対策に力を注いできましたが、布設後30年以上経過した管路が、全体の約40%を占めるなど、老朽化は確実に進んできています。今後は、ストックマネジメント計画を立て、計画的な管路の更生や改築を進めていきます。

全体総括

経営指標については、今のところ全国や類似団体を比べても平均的な数値であります。しかし、管路や処理場、ポンプ場の老朽化が進んでいる状況から、施設の計画的な更生・改築が求められます。また、施設の整備に伴って、適正な使用料算定も必要となってきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。